

令和五年度 奈良県租税教育推進連絡協議会長賞

身近な出来事から税を考える

西大和学園高等学校 一年 中嶋 此穂

毎日のように耳にする救急車や消防車のサイレン音。あなたはこれらをどう捉え、何と感じますか。

私は毎日、通学の際に消防署の近くを通ります。なので必然的に訓練の様子や出動するのを目にします。これが日常となってきたある時、私はもし消防署がなかったら、と考えました。答えはとても簡単。人命救助ができない、です。私は無くて良い仕事などこの世に無いと思っています。人の生死が関わるのならば特にそうです。私は消防署や警察署、公民館や図書館が税金で建てられた公共サービスであることは知っていました。なので、こんな一つの簡単な問いが、税金の大切さを私に、語りかけてきました。

福沢諭吉の言葉に、国民の納税は政府と国民双方が一致した約束だ、というのがあります。政府が人々の生活や安全を保障するための費用を、国民が税として払い、良い循環を作ろうというものです。私は、この言葉を知ったとき、一致した約束という表現に惹かれました。また、そうであるべきだと感じました。人は誰もが老い、周りの助けが必要となります。裏を返すと、社会で活躍している間は助ける側に立つということです。社会で活躍するためには、学習が必要であり、税金で支えられた義務教育の通過が不可欠です。こう考えると、助ける側と助けられる側で、人生の時間を半分に分割していると思います。

私は、助けられる側になったときに助けたいと思われるような生き方にしたいです。たまに、税金について批判的な目ばかりを向ける人がいます。政府の税金の使用方法は誤りだとか、否定から入る考えの人もいます。けれど、政府の役人も私達と同じ人間です。もちろん、国を動かすうえでの責任は必ず負うものです。私は、まだ税金について詳しくないただの高校生ですが、自国のことには敏感でありたいと思っています。

また、税金は人と人や人と社会をつなぐ、仲介的役割も果たしていると思います。自分の納める税が自分、もしくは全く知らない他人のためになると考えると嬉しくなると思います。チームはリーダーが一人いるだけで成立しないのと同様に、社会も色んな支えがないと上手なサイクルが生み出されません。その多くの支えの一つが税だと思います。税は種類が多い分、自分で経験して知っていくものだと思います。

私は社会に出ていくための準備期間にいます。この間に税について詳しくなり、日々に感謝できるようになりたいです。

サイレン音は今日も鳴ります。